

英米文化学会会報 第31号

SES NEWSLETTER

第94回例会と臨時総会のお知らせ

標記の例会と臨時総会を下記の要領にて開催します。

- ◆開催年月日：平成9年6月14日（土）
- ◆開催場所：日本大学歯学部3号館2階第5講堂（お茶の水ニコライ堂隣）
- ◆時間：例会 15:00～17:00(受付14:30)
臨時総会 17:00～

臨時総会では、学会理事の選任、年度の会計報告等が行なわれる予定です。例会にご出席になれない会員もご参加ください。

- ◆懇親会：於モーツァルト 会費：5,000円
研究発表

1. 『お菓子と麦酒』における「わたし」について

大野 直美(東洋大学大学院)
司会 市川 仁(中央学院大学)

2. 第二波フェミニズムの発展とその問題点

吉原 令子(法政大学)
司会 宍戸絵里香(文京女子短大)

第94回例会研究発表レジメ

1. 『お菓子と麦酒』における「わたし」について

大野 直美

W.S.モームの長編小説『お菓子と麦酒』の語り手である「わたし」は、単なる作品の語り手にとどまらず、他の作中人物と同様の一人の作中人物としての役割も果たしている。この作品は、「わたし」による回想形式をとって、青少年時代の「過去」における「わたし」の周囲の状況を成人して作家となった「現在」の「わたし」が振り返り、人々は虚偽の生活を送っていたと考えるなど、「わたし」

の大人としての視野の広がりも見られ、作品に真実らしさを加えている。今回の発表においては、「わたし」の作品の語り手としての面からだけでなく、『お菓子と麦酒』を芸術家について書かれた小説という観点から読むことにより、作家という芸術家としての「わたし」の役割を中心にして考察を試み、モームが「わたし」を通して読者に伝えたいことは何かを解明してみたいと思う。

2. 第二波フェミニズムの発展とその問題点 吉原令子

1960年代に始まった現代の女性運動である第二波フェミニズムは、公民権運動、ブラック・パワー運動、ベトナム反戦運動、学生運動から影響を受け、革命的要素を得て誕生した。『新しい女性の創造』(The Feminine Mystique)の著者であるベティ・フリーダンはNOWを結成し、ますますその力を増大させていった。しかし、若いフェミニストたちはヒエラルキー的組織やブルジョア的な団体に対する批判からNOWとは決別し、個々の団体を組織し始めた。その運動の発展と衰退は1960年代の黒人解放運動に類似している。1980年代になり、ベル・フック、アリス・ウォーカー、バーバラ・スミスなどが中心となったブラック・フェミニズムが台頭してくると、この第二波フェミニズムは白人女性のための女性運動であったと批判されるようになる。現在、アメリカでは自らをフェミニストであると名乗る若い女性が少なくなっているという。これからのフェミニズムの発展のためにも、ここでもう一度フェミニズムの理論や運動に潜む問題点を考える必要があるのではないだろうか。

今回の発表では、第二波フェミニズムの発展を振り返り、もう一度、現代のフェミニズムの残された問題点を再検討してみたい。

事務局から

1. 顔写真ご提出のお願い

前回の会報でお願いしました、顔写真の件ですが未だ集まっておりません。必ずご提出くださるよう再度お願い申し上げます。同時に、ご専門分野も詳しくお知らせください。写真裏面にお名前をお忘れなく。なお、会員数は4月末日現在で203名となっております。

送付先：佐藤 治夫宛

〒101 千代田区神田駿河台 1-8-13

日本大学歯学部

2. 学会のホームページについて

当学会のホームページは、現在かなりのサーチエンジンに登録されております。会員による出版物の紹介コーナーを開設しておりますので、書籍の出版を平成8年度以降になされた会員は事務局までご一報ください。掲載させていただきます。その際には、原本は不要です。書誌データ（出版年月日を含む）のみをお送りください。

3. メールアドレスについて

以下は会員のメールアドレス一覧（入手順）です。掲載されていない会員でメールアドレスをお持ちの場合は、リスト末尾の佐藤治夫まで確認メールをお送りください。

5. 転居・訂正

第15回大会のお知らせ

標記の大会を下記要領にて開催します。

◆開催年月日：平成9年9月6日（土）

◆開催場所：法政大学市ヶ谷校地 58 年館
J R 市ヶ谷駅・飯田橋駅徒歩 4 分
〒102 千代田区富士見 2-17-1

日 程

受付開始：9：30

挨拶：10:00-10:10 英米文化学会会長
名和 雄次郎（拓殖大学）

研究発表：10：10—15：20

ホームページ (<http://www.threeweb.ad.jp/~shakey23/>) の内容は常に更新しております。日本語ホームページから直接サーチエンジン (Yahoo!) の検索が可能となっておりますのでお試してください。また、便利な URL コーナーでは、書籍関係が充実しております。一度お試してください。

4. 新入会員

1. 攻撃としての「笑い」

赤堀 志子(昭和女子大学大学院)

司会 岸山 睦(昭和女子大学)

2. 高校英語検定教科書オーラル・コミュニケーションBのタスク分析—第四分科会
研究報告

生内 裕子(東京女学館短期大学)

太田 晴美(目白学園短期大学)

川口 恵子(芝浦工業大学)

司会 平川 敦子(城西大学)

3. 日・英色彩語の意味分析

野中 博雄・斎 孝則(桐生短期大学)

司会 亀山 孝(共愛学園高校)

4. 英語教育における学習者の母国語使用

柏木 厚子(昭和女子短期大学)

司会 木村 みどり(文京女子短期大学)

5. ハード・ボイルド・スタイルの本質

--「二つの心の大きな川」に見られる「癒し」と「回復」--

高取 清(文京女子短期大学)

司会 佐藤 成男(玉川大学)

講演 (15:30—17:00)

アメリカの文化多元主義について

越智 道雄(明治大学教授)

当日会費：一般500円 学生300円

大会事務局：佐藤英語研究室

〒101 千代田区神田駿河台1-8-13

日本大学歯学部

TEL 03-3219-8160(直)

分科会活動について

第一分科会による書物が出版されました。

タイトル：『たたかう性 英米文学のヒロインたちに見る反「近代」』(CONFLICTS IN SEXUALITY)

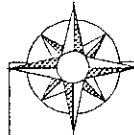
執筆者：吉田 俊実、佐久田英子、君塚 淳一、五味田幸夫、高取 清、須田 理恵
出版社：一葉社

価格：3,200円+税

同書のまえがきの一部を紹介します---

「セクシュアリティ」に関する議論は、きわめて単純化すると、<本質主義>対<構成主義>の構図をとることが多いが、こうした議論をふまえながら、わたしたちは、テキストを通じて、時代性を含むさまざまな位相から「セクシュアリティ」をとらえようと試みた。この本のタイトルに『たたかう性』とかかげ、あえて「性」という言葉を用いたのは、「生まれつきの性」「内在する性」に対して、男が、女がたたかった軌跡を、英米文学の登場人物から、そして、そのような人物を創造した作家たちからたどろうとしたからである。

会員の多数の皆様によるご利用をお願い申し上げます。



学会創立30周年記念事業

記念誌の名称は「英米文化学会創立30周年記念誌」と決まりました。原稿をお寄せくださいました先生方に厚く御礼申し上げます。

英米文化学会会報 第31号 (年4回発行)

編集・発行：英米文化学会編集委員会=池田 広子、小川 喜正、岸山 睦、武井 朗子、
中村 豪、宮崎 敬子、山根 正弘

発行責任者：中村 豪

〒